

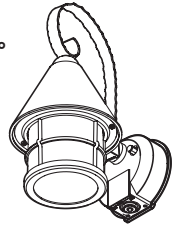
# ブラケット

## LIXIL EURO<ユーロ> (LPJ-4型) 取付説明書

お客様へ

器具の施工には電気工事士の資格が必要です。必ず販売店、工事店に依頼してください。

工事店様へ

施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。  
この説明書は必ずお客様にお渡しください。

### 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や  
損害の程度を区分して、説明しています。

■ お守りいただく内容を、次の図記号で  
説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある  
内容」です。

注意

「傷害を負うことや、財産の損害が  
発生するおそれがある内容」です。

してはいけない内容です。



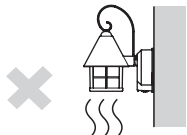
実行しなければならない内容です。



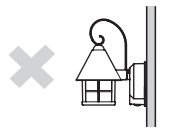
警告

#### 取付面

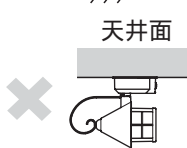
- 次のような場所には取り付けない  
火災・感電、落下によるけがのおそれ  
があります。

浴室などの湿気の  
多い場所

天井面

補強のない場所  
(ベニヤ板や  
石こうボードなど)

据置取付

取付面が本体パッキン  
より小さい場所

この器具は防雨型・壁面取付専用です。



禁止

#### その他

- 器具の取り付けは、説明書に従い確実に  
取り付けに不備があると、火災、感電、落下  
によるけがのおそれがあります。

- 交流100ボルトで使用する  
過電圧を加えると過熱し、火災、感電の  
おそれがあります。

- 電源線は端子台の差込み穴の奥まで  
確実に差し込む  
差し込みが不完全な場合、火災、感電の  
おそれがあります。

- 検知部が下になるように  
取り付ける

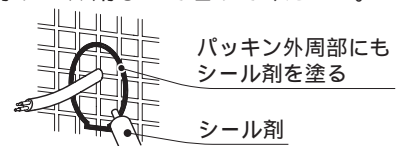
浸水による感電の  
おそれがあります。

検知部



必ず守る

- 取付面と本体パッキンのスキマおよび  
パッキン外周部にシール剤を塗る  
本体パッキンと取付面とのすき間を  
防水シール剤などで埋めてください。

パッキン外周部にも  
シール剤を塗る

シール剤

防水が不完全な場合、火災、感電のおそれ  
があります。

#### ■ 壁スイッチ

- 調光機能が付いた壁スイッチの場合は、  
一般の入切用スイッチに交換する  
火災のおそれがあります。



調光器の取り外しが必要です。



必ず守る

アース線  
接続

- 接地工事は、電気設備の技術基準に従い  
確実に  
接地が不完全な場合、感電のおそれ  
があります。

**注意**



●温度の高くなるものの近くに取り付けない  
火災の原因となることがあります。  
ガス機器やその排気筒の近くに取り付けしないでください。

施工前にお読みください

設置場所についてのご注意

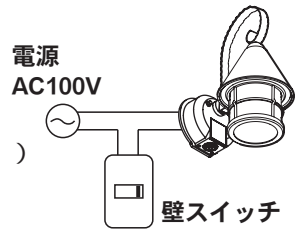
●次のような場所には取り付けしないでください。  
この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に  
取り付けると誤動作の原因となります。

<p>✕ 反射の強い床面のある場所</p>	<p>✕ 風などでよくゆれる植物の近くなど</p>	<p>✕ 取付高さが3mを超える場所</p>	<p>✕ エアコンの吹き出し口、換気扇の近く</p>
<p>✕ 交通量の多い道路に面した場所</p> <p>車などより大きな熱源の場合、取扱説明書記載の検知範囲より広くなります。</p>	<p>✕ 前面に障害物のある場所 (透明なガラスも含む)</p>	<p>✕ 振動の激しいボールなど不安定な場所</p>	<p>✕ 昼間でも暗い所や夜間でも明るい場所</p>

一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

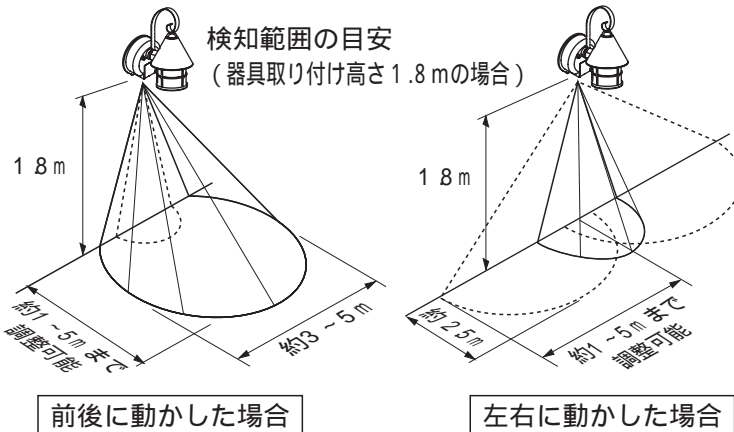
配線についてのご注意

必ず壁スイッチを設けてご使用ください。(スイッチは別途ご用意ください)  
 ・連続点灯への切り替え操作ができません。  
 ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。  
 壁スイッチは器具1台につき1個設置してください。複数台を1個のスイッチに配線すると、点灯状態にパラツキが発生するおそれがあります。  
 ほたるスイッチと接続する場合は器具1台につき、スイッチ3個までで、ご使用ください。  
 (4個以上のほたるスイッチと接続すると、スイッチを切にしても器具が消灯ないことがあります。)  
 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチが0Nの状態でも照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。(故障ではありません)  
 通常は壁スイッチを0Nにした状態でご使用ください。



センサの検知範囲

センサの検知部を動かして、検知範囲を調整できます。  
 (センサの検知部は全方向に約20度動きます)  
 器具の取り付け高さ1.8m(標準)~3mの間では、検知範囲は変わりません。



ご注意

この照明器具のセンサは熱源の温度変化を動きとして捉えます。そのため人以外にも動植物、自動車なども検知します。また周囲条件(気温、地面の状態、取り付け高さなど)、進入する人の状態(服装、移動速度、進入方向、体温など)により検知範囲が大きく変化します。

- 検知範囲が広がる場合
  - ・冬場など気温と体温の差が大きいとき
  - ・人よりも大きな熱源(車など)が移動したとき
- 検知しない、検知感度が鈍い場合
  - ・人が静止しているとき
  - ・周りが明るいとき
  - ・夏場など気温が体温に近づいたとき
  - ・センサに向かってまっすぐ近づいたとき
- 勝手に点灯する場合
  - ・道路を通行する人、車、犬、猫などを検知したとき
  - ・風、雨、木のゆれなどを検知したとき
  - ・急激な温度変化を検知したとき
  - ・換気扇などの吹き出し口、給湯器、エアコンの室外機などの温度変化の影響を受けたとき
  - ・ごく短い停電(瞬時停電)が発生したとき

## 調整ツマミの設定について

この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。必ず、「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

## 各部のなまえと付属部品

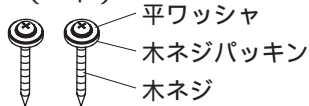
施工する前にまず付属部品をご確認ください

### 施工前のご準備

ツマミネジ(2本)を取り外し、カバーを取り外す。  
ソケットにランプを取り付ける。  
ツマミネジ(2本)で、カバーを取り付ける。  
袋ナット(2個)を取り外し、取付板を取り外す。  
フランジ裏面の接地端子ネジを取り外し、フランジから器具内用アース線を取り外す。

### 付属部品

#### □木ネジセット (2本)



カバー  
(製法上、気泡が入る場合があります。  
(異常ではありません))

ランプ

袋ナット (2個)

ソケット

適合ランプ  
表示

ツマミネジ  
(2本)

<フランジ裏面>

接地端子ネジ  
端子台

フランジ  
木ネジセット  
(2本)

取付板

電源線

本体パッキン

器具内用  
アース線

検知部  
(全方向約20度動きます)

フランジカバー

## 照明器具を取り付ける

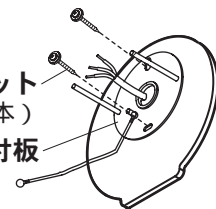
安全のため、電源を切ってから行ってください

付属の木ネジセット(2本)で

### 1 取付板を取り付ける

壁面の補強材のあるところに取り付ける。  
木ネジに平ワッシャ・  
木ネジパッキンが  
取り付いている  
ことを確認する。  
取付ピッチ: 66.7mm

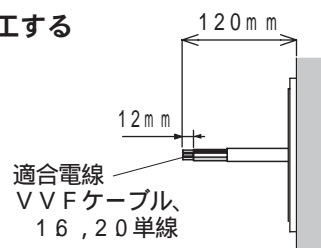
木ネジセット  
(2本)  
取付板



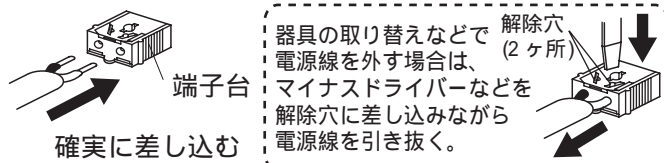
端子台に

### 2 電源線を接続する

#### ①電源線を右図のように加工する



#### ②電源線をフランジ裏面の端子台に差し込む



#### ③接地端子ネジからD種(第3種)接地工事を行う器具内用アース線と電源線側アース線を同時にフランジ裏面の接地端子ネジに取り付ける。

袋ナット(2個)で

### 3 フランジを取り付ける

袋ナット(2個)で確実に締め付ける。

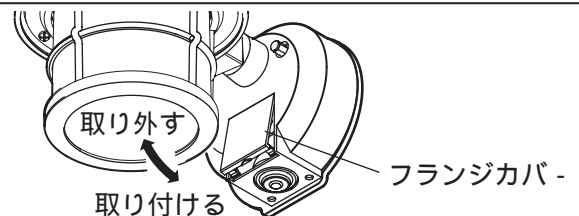
**!** 注意

アース線をフランジではさみこまないこと  
感電、漏電の原因となることがあります。

### 4 検知範囲と調整ツマミを設定する (次ページ参照)

調整ツマミの設定はフランジカバーを取り外して行ってください。

フランジカバーの取り付け・取り外しかた



**!** 注意

フランジカバーは必ず取り付けて使用する  
浸水による感電、故障の原因となることがあります。

# 検知範囲と調整ツマミを設定する

昼間でも設定できます

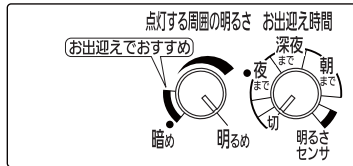
- 設定の前に
- ①壁スイッチをOFFにする
  - ②フランジカバーを取り外す

## 1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする

### 出荷時の設定

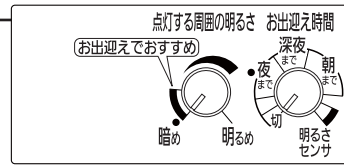
#### [手順]

- ①あらかじめ、調整ツマミを以下の設定にする




点灯する周囲の明るさ  
お出迎え時間

「明るめ」(右いっぱいに戻す)  
「切」(左いっぱいに戻す)



- ②検知部を動かし、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

検知部は、全方向に約20度動きます。  
センサの検知範囲は、 2ページ「センサの検知範囲」を参照ください。

- ③壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

➡ 約40秒間点灯してから消灯します。


消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

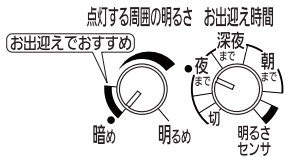
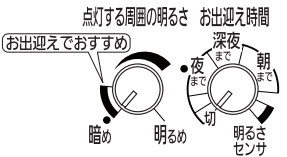
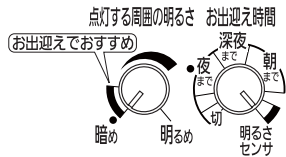



お出迎え時間が「切」になっていない	お出迎え時間を「切」にする
センサの検知範囲に入っている	センサの検知範囲から外に出る
連続点灯になっている	壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて
(検知部が赤く光ったまま)	再び壁スイッチをONにする

- ④消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

センサの検知範囲の外に出てから約5秒後に消灯します。

## 2 使いかたに合わせて調整ツマミを設定する

以下の3種類の使い方ができます。(詳しくは  取扱説明書3ページ)

使いかた	お出迎えモード	ON/OFFモード	明るさセンサモード
動作	暗くなったら点灯 設定時刻になると消灯 設定時刻以降は人が近づいたときに点灯	暗くなって、人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯
おすすめのツマミ設定			
詳しい設定方法	 取扱説明書4ページ	 取扱説明書5ページ	 取扱説明書6ページ

## 3 フランジカバーを取り付ける

 3ページ「照明器具を取り付ける」 **4** 参照

## 4 壁スイッチをONにする

➡ スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。

ご注意 お出迎えモードに設定した場合  
壁スイッチをONにした初日は、手順2で設定した「お出迎え時間」ツマミの位置に  
関係なく、お出迎え点灯は約4時間で終了します。翌日より設定した時刻通り終了します。

取説コード

**Z477**

XXX017520  
201402A\_1009  
201607B\_1049